

参加
無料

「すべてのものとダンスを踊って—共感のエコロジー」展 関連イベント

金沢21世紀美術館×地球研「アニマ・レイヴ存在の交差点で踊る」



研究者とアーティストの
クロストーク

大山修一、保良雄
阿部健一、AKI INOMATA
安元純、澤崎賢一

環境日本学ワークショップ

吉川成美、村田正明、
ドウノヨシノブ、本多美優

サンゴ演劇

Sceneプロジェクト

トークセッション2
人の過去の秘密を乗せて地球はまわる
感覚を通じた学びの場としての
美術館／博物館

篠田謙一、長谷川祐子、山極壽一



地球研



絵本を読もう(地球研DAYS編)
〜奇妙で不思議な土の世界

林健太郎

トークセッション1
「能登の地と知、いかに学びを繋げるか。」

谷口真人、阿部健一、他

DAYS



2025
2.15 | 土 | **2.16** | 日 |

金沢21世紀美術館 交流ゾーン プロジェクト工房
いのき迎賓館ガーデンルーム

主催：金沢21世紀美術館[公益財団法人金沢芸術創造財団]、総合地球環境学研究所



アマ・レイヴ
存在の交差点で踊る



撮影：森田兼次
無生物、植物、動物、人間——それぞれが異なる存在だからこそ補い合い、生命の網を編み上げています。霊長類研究の先駆者・今西錦司(1902-1992)は「生命とは一つの存在から分化した構造の連なり」と語りました。金沢21世紀美術館と総合地球環境学研究所(地球研)は、「すべてのものとダンスを踊って—共感のエコロジー」の一環として、アートを媒介に多様な「アニマ」との関係性を再発見します。私たちが直面する環境問題への深い理解もまた、人間と自然を対立させるのではなく、動植物、微生物、原子レベルの物質、そして長い時を刻む鉱物やサンゴなど、自然と人間の“あいだ”の移り行くすべての「アニマ」と言葉を介さないコミュニケーション(応答・交換・生成)を通じて得られるものです。研究者やアーティスト、建築家、キュレーターが交差する視点をもとに、土／鳥と水／サンゴのキーワードを軸に、期間中変容を続ける作品を展示しています。共鳴し合う生命の響きと創造の喜びを通じて、環境問題への新たな理解と共感を探ります。

総合地球環境学研究所とは



『地球環境問題の根源は人間文化の問題にある』
総合地球環境学研究所(地球研)は、2001年に京都府京都市に創設された国立の研究所です。地球環境問題を「人間 humanity」と「自然 nature」の関係はどうあるべきか、という広い意味での人間文化の問題として、文理融合の研究により根本からとらえ直そうとしています。研究者は研究室に留まらず、世界中のフィールドに出ていき、社会の人々と協力して課題をあぶり出し、新しい枠組みと解決方法を見出すために活動しています。



地球犬

イベントのお申込み



研究者とアーティストのクロストーク
2.15 | 土 |



トークセッション1
「能登の地と知、いかに学びを繋げるか。」
2.16 | 日 |



環境日本学ワークショップ
「ありありて これからも、いつまでも」
2.15 | 土 | 16 | 日 |



トークセッション2
人の過去の秘密を乗せて地球はまわる
感覚を通じた学びの場としての美術館／博物館
2.16 | 日 |

イラスト：赤池佳江子

研究とアート のセッションで 共感の喜びを分かち合おう

金沢21世紀美術館と総合地球環境学研究所は、2月15日・16日の2日間「地球研DAYS」を開催します。地球を取り巻く課題を、研究とアートの視座から一緒に考えます。展覧会「すべてのものとダンスを踊って—共感のエコロジー」の関連イベントとして、研究者やアーティストとのクロストーク、演劇、絵本を読もう、さらには学術的なシンポジウムなど、多様な世代がこのテーマに関わることでできるプログラムを用意しています。地球、そしてあらゆる生命がいかに対話し、新たな理解や共感を創造の喜びを共有しながらできないか。その方法を探ります。



2.15|土|

絵本を読もう(地球研DAYS編) ～奇妙で不思議な土の世界

美術館で絵本を楽しみ、そして展示に親しむプログラム。子どもからおとなまで、どなたでも参加できます。絵本を読んだ後は、土にまつわる展示を、研究者といっしょに探検しにでかけます。

時間:11:00 / 14:00 (各回50分)

会場:金沢21世紀美術館 プロジェクト工房

読み手:上田啓未・小孫ちさと(ライブラリアン)

作品案内:林健太郎(総合地球環境学研究所・教授 / Sustai-N-ableプロジェクト)



2.15|土| 要事前申込

研究者とアーティストのクロストーク

地球との対話を通じた学び、あるいは発見をどう伝えていくか。研究者と表現者であるアーティストとの3組のクロストークで考えます。

時間:14:00~17:00 (各回1時間)

会場:金沢21世紀美術館 レクチャーホール

定員:80名

申込:Peatix(裏面2次元コードよりお申し込みください)

1 『コンポスト・ハウス』エネルギーの交換関係

登壇者:大山 修一(総合地球環境学研究所・教授/有機物循環プロジェクト)、保良 雄(アーティスト)

2 「問うことについて」

登壇者:阿部 健一(総合地球環境学研究所・客員教授)、AKI INOMATA(アーティスト)

3 「映像作家×水文学者:みているもののちがい」

登壇者:安元 純(琉球大学・助教/総合地球環境学研究所/LINKAGEプロジェクトメンバー)、澤崎 賢一(総合地球環境学研究所・特任助教)

司会:本橋 仁(金沢21世紀美術館)



撮影:森田兼次



2.15|土| 16|日|

演劇「海のセレナーデ」

5万年前の喜界島と現在の能登を行き来し、サンゴが唄う演劇。交流ゾーンの展覧会場の場を使いながら演劇を上演します。

時間:各上演30分 11:00 / 13:00 / 15:00 / 15日のみ18:00

会場:金沢21世紀美術館 交流ゾーン

劇作:宮崎 玲奈 演出:山下 恵実

出演:月村 丹生、南波 圭、倉島 聡(以上、青年団)、他

製作:ScENEプロジェクト、青年団/一般社団法人江原河畔劇場

企画ディレクション:山崎 敦子 総合プロデュース:渡邊 剛



2.16|日| 要事前申込

トークセッション1

「能登の地と知、いかに学びを繋げるか。」

昨年の元旦を襲った能登半島地震から1年が経ちました。いま、変わりゆく能登の環境に向き合う研究者からの報告と、その変化に私たちは、どう向き合い新しい世界を創ることができるのか。共に考えます。

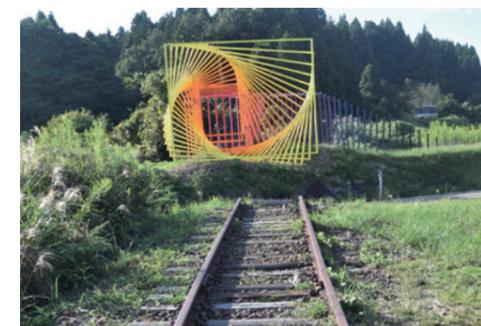
時間:10:00~15:30

会場:しいのき迎賓館 ガーデンルーム

申込:Peatix(裏面2次元コードよりお申し込みください)

第一部 10:00~12:00 能登から学ぶこと(研究報告会)

第二部 13:00~15:30 能登に学び創ること



2.16|日| 要事前申込

トークセッション2

人の過去の秘密を乗せて地球はまわる 感覚を通じた学びの場としての美術館/博物館

地球のことを考える研究所、博物館、美術館。それぞれ性格は異なるかもしれませんが、同じ課題に向き合うなか、それぞれの使命はなにか。また同時に手を取り合うことで生み出される、これまでに無い新たな学びをいかに生み出していくか。これからの学びのあり方を考えます。

時間:16:00~18:00

会場:しいのき迎賓館

事前申込:Peatix(裏面2次元コードよりお申し込みください)

登壇者:篠田 謙一(国立科学博物館・館長)

長谷川 祐子(金沢21世紀美術館・館長)

山極 壽一(総合地球環境学研究所・所長)

司会:吉川 成美(総合地球環境学研究所上環境日本学センター センター長・特任教授)



2.15|土| 16|日| 要事前申込

環境日本学ワークショップ

「ありありて これからも、いつまでも」

「うつろい」ゆく人と自然の風景を、これからも、そしていつまでもという意味で「ありありて」と名付けたマンガソン・ワークショップを開催します。マンガソンとは、課題をめぐる話し合いの成果を限られた時間内で「漫画(まんが)」に表現して発表する新しいワークショップの手法です。今回は「まつり」をテーマに、あらゆるいのちが遍く巡る「未来のまつり」の風景を考えていきます。

時間:2月15日(土)16:00、16日(日)10:00

会場:金沢21世紀美術館 プロジェクト工房

事前申込:Peatix(裏面2次元コードよりお申し込みください)

マンガソン・ワークショップ:テーマ「未来のまつり」

オープニング:吉川 成美(総合地球環境学研究所上環境日本学センター センター長・特任教授)

語り:「祭り」と「祀り」村田 正明(七尾市なたうち地区農家)

マンガ指導:ドウノヨシノブ(えかき・ものづくり作家/京都精華大学マンガ学部非常勤講師)

協力:本多 美優(一般社団法人くくむ・代表理事)

